

土岐川グリーンベルト通信 第84号

平成 29 年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

笠原中学校の1年生76名が、ふるさとの森「笠原の森」をフィールドとして、土砂災害と樹林の働き、樹林整備の意義を学ぶための学習、土砂災害に強い樹林を目指した樹林整備活動に取り組みました。

この活動は、地域の森づくり団体をはじめ、多治見市などの支援のもと実施しました。

○学習会 10月11日

室内講義「砂防のはなし」「森林のはなし」
野外学習「降雨体験」「土砂流出実験」「砂防堰堤実験」

○観察会 11月17日

野外学習「砂防堰堤の見学」「森の土の観察」
「森の木の観察」「玉切り体験」

○樹林整備活動 12月1日

野外学習「常緑低木や成長の悪い木の伐採（間引き）」
「木のネームプレート設置」



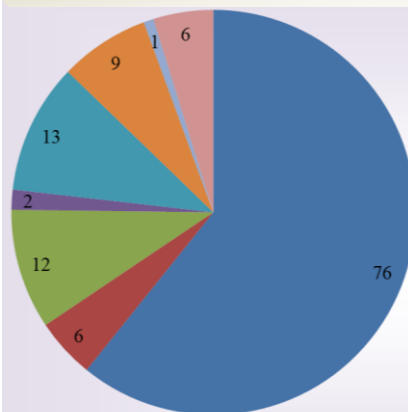
10/11 学習会

室内講義



「砂防のはなし」では、樹林地が荒廃していた笠原の森の歴史や樹林整備の必要性を学びました。
「森林のはなし」では、日常の衣食住のあらゆる場面に木や森が関わっていることを学びました。

○今年の活動に関わったみなさん



総参加人数：125名
※3回の活動を対象に団体ごとの参加人数を集計

- 笠原中生徒
- 笠原中先生
- 多治見砂防国道事務
- 多治見市
- 地域ボランティア (市之倉森づくり部会 多治見さぼう・みちボランティア)
- 岐阜大学生ボランティア
- 岐阜県森林組合連合会
- その他

野外実験

多治見砂防国道事務所による様々な実験・体験

降雨体験



土砂災害の引き金となる降雨を体験しました。中でも時間雨量120mmでは息苦しさを感しました。

土砂流出実験



大雨の時は、森がないと土砂が流れ出てしまいました。森の存在は大切です。

砂防堰堤実験



砂防堰堤によって、土石流の被害を食い止めることができました。

【生徒の感想】

- ★実験を見学することで、話を聞くだけでは疑問に感じていた砂防堰堤の重要性がよく理解できた。
- ★ニュースの降雨量なども注意して見たり、土砂災害の危険性について家族の話題に出したりしたい。

11/17 観察会

観察会では、「笠原の森」の中にある砂防堰堤を見学してその役割を学びました。また、土や木の観察を通して「笠原の森」に触れ合うとともに、森の中には暗い場所や成長の悪い木があることを知り、樹林整備活動が必要であることを学びました。最後に、玉切り体験を通して、次の樹林整備活動に向けてノコギリと剪定バサミの使い方を練習しました。

森での活動では多治見市の職員や岐阜大学生ボランティアの指導のもとで、安全に行いました。

砂防堰堤の見学



土や木の観察



玉切り体験



12/1 樹林整備活動

樹林整備活動では、多治見砂防国道事務所や多治見市の職員、岐阜大学生ボランティアや多くの地域ボランティアの指導のもとで実際に木の伐採作業を行いました。活動前には装備や伐採時の注意点を確認し、ケガなく安全に活動を行うことができました。活動を通して、森の中が明るくなったことを実感するとともに、残された木がこれから大きく育つことで土砂災害を抑える効果が高くなることを学びました。

活動の最後には、記念として明るくなった森の中や歩道沿いにある木に木の名前を書いたプレートを設置しました。

活動前の安全確認（装備の確認）



伐採作業（支援者の指導のもと、仲間と協力して作業）



玉切り作業



木のネームプレート設置



「土岐川流域グリーンベルト整備事業」は、多治見市・土岐市の市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯（グリーンベルト）として、保全・創出することにより、土砂災害を防止し、自然環境・景観を保全することを目的としています。

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL：(0572)25-8020

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>